米西（ロサンゼルス・サンフランシスコ）行政視察団かけある記

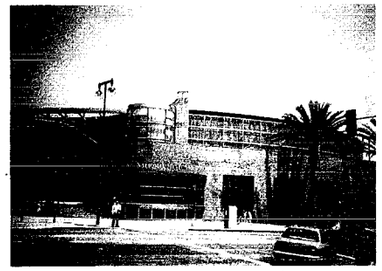
月潟村助役　棚橋敏男

昨年10月に計画されたこのツアーは、米国における同時多発テロの発生により中止となり、今回、あらためて計画されたもので、私は県港湾空港局空港課の笠原課長を団長とする「新潟県米西行政視察団」の一行17名の一員として参加の機会を頂きました。

このツアーは、新潟空港の三千メートル化の早期実現と新潟空港と米国本土を結ぶ始めてのチャーター便を運行することにより、定期便化に弾みをつけるに期待がかけられた企画です。

さて7月31日、午後12時45分、私達のほか新潟県建設業協会、新潟経済同友会、そのほか市民ツアー客など約二百人を乗せた最新鋭のボーイング747型機は、四泊六日の旅の最初の訪問地ロサンゼルスに向け新潟空港を後にしました。

私達を乗せたチャーター機は、国際日付変更線を超え、時速約一千キロメートルで約10時間のフライトの後、同日午前6時50分、ロサンゼルス国際空港に着陸しましたが、お昼に出発して同日の朝に到着するということで、いわゆる時差ボケに悩まされたのは私一人ではなかったらしい。



ロサンゼルス市のリトル東京にある
全米日系人博物館

訪問した二都市ともカリフォルニア州に属し、気候は一年を通して安定しており、雨が少なく、（年間降水量はロスで390㎜、シスコで540㎜）訪問した時期（7～8月）は、1ヵ月の降水量が3㎜位といわれる乾期で、植物は毎日のように散水をしないと枯れてしまうということ。水源は数百キロ離れた山脈からの雪解け水を落差を利用して送水して使っており、水は貴重なものである。

ＬＡ・ワークスの
ボランティア出勤風景

最初の視察は、翌8月1日㈭に訪れた「ＬＡ・ワークス」という市民参加型の社会福祉を実践している非営利的ボランティア行動センターの現状で、到着してすぐに責任者のタナー・メスウイン氏から説明を聞きました。

当センターは、1991年に起きたいわゆるロサンゼルス暴動からの復興を契機として設立されたもので、政府などの公的援助は全く受けず、活動資金は協力会社や一般市民からのカンパにより運営されているということである。

現在の登録メンバーは約二千人で、社会的な地位は関係なく、ボランティア活動には協力して一緒に働く。ホームレスやストリートチルドレンの世話、公共物の落書きを消す作業など40種類のプロジェクトに分かれて活動する。専任職員は3人で、現在の事務所もメンバーの拠出で建てられたという。

又、地域のニーズに対処する手段としてボランティアサービスの内容を学習し、指導者を育成する6ヵ月間リーダーシップ開発プログラム「コミュニティ・トレーニング・パートナーシップ」を開発し仕事の合間に研修させ、修了者には終了資格証が交付されており、この終了は高く評価されている。

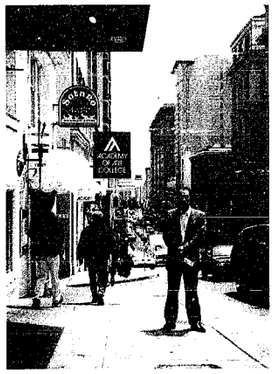
サンフランシスコ
ゴールデン・ゲート・ブリッジにて

ボランティアの行動は、ＬＡ・ワークスからの連絡により必要な人数、技術者が送られているが、資金面で若干困っていると説明され気持をカンパさせて頂きました。

翌8月2日㈮の午前中は移動日で、午前5時起床、7時にホテルを出発してロサンゼルス国際空港から9時30分にサンフランシスコ国際空港に向けてフライト。同10時40分にサンフランシスコに到着。午後からはＮＰＯ活動による街づくりを視察するためサンフランシスコ都市計画研究協会を訪問。早速、神戸の大震災の時に復興計画策定に関して来日されたというキャサリン・バーマンさんからお話を聞いた。

この協会は、サンフランシスコ全体の都市計画を推進するＮＰＯプランナーの専門家集団であり、市内の都市計画に関する決定はこのプランニングコミッションの専門の決定機関の審査が義務づけられている。

サンフランシスコでは市長4人、市議会3人の選出されたコミッショナーが市民参加の会議を経て決定を下すことになっており、この会議は毎週木曜日に開催され、その開発が適正に、規制に合致しているかどうかを始め、市民を交えて結論の出るまで、場合によっては深夜まで討論が及ぶこともあるとのこと。



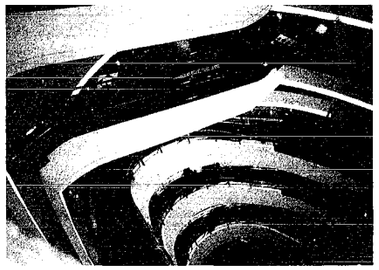
サンフランシスコ
ダウンタウンの街角で

決定は、最終的には市議会で承認されなければなりませんが、実質的な決定は殆どこで行われ、くつがえることはありません。

コミッションは、全体的なジェネラルプラン、土地利用計画（ゾーニングプラン）から家の増・改築に至るまでを公開の場で決定しています。

さて、最後の視察は、8月3日㈯のサンフランシスコセンターの中における米国の流通事務と雇用創出について、特にセンターの約半分を占めるノードストロム百貨店の販売実績と地域雇用に与える影響についてである。

訪問したサンフランシスコセンターは、ダウンタウンの中心地にあり、1988年に設立され、当時の総工費1億4千万ドル（約168億円）、面積67万平方フィート（約6万2千平方米）で、百貨店が核となる全米でも数少ない垂直型モールである。9階建てのセンターは、上の4階部分を広さ33万平方フィート（約3万6百平方米）の世界最大のノードストロム百貨店が占め、「空中ストア」と呼ばれているそうです。



サンフランシスコセンターのノードストロム百貨店「三菱らせん型エスカレーター」

下の4階にはワン・ランクの下の店など、90以上の小売店が入っており、格納式天窓で覆われた長円形の吹き抜けホールがあり、それぞれの階を世界でも最も高性能と言われている三菱製の「らせん型エスカレーター」が買物客を運んでいました。

同センターは、ブロンズとイタリア大理石をふんだんに使っており、2千2百人以上の雇用を創出し、年間千八百万ドル（約22億円）以上の税収入を生み出し、地域に貢献しています。

今回は四泊六日の比較的短い米国の訪問ではありましたが、三カ所の視察を通じて本格的なボランティア組織によるＬＡ・ワークスの活発な活動と熱意。サンフランシスコ都市計画研究協会でのＮＰＯ活動における住民の街づくりに対する情熱。自分達の街は自分達が造っているという自負心が感じられました。

又、サンフランシスコセンターのノードストロム百貨店では、制服のない店員さんにとまどいがありましたが、お客様には5分以内に必ず挨拶して、店員であることを理解して頂き、あとはゆっくりと買い物を楽しんで頂くということ。又、4階のコーナーではコーヒーなどのソフトドリンクのセルフサービスが行われるなど、館内は全体的にゆったりとしたムードが感じられました。

戦中派にはなつかしい響き
サンフランシスコのチャイナ・タウン

一番驚いたのはレシートさえあれば他店の品物でも返品に応じていること。返品は未使用であれば期限はつけていないなど、お客様サービスには限界がないことを知らされると共に、世界最大の百貨店の自信が感じられました。

今回の視察を通じて多民族社会と言われるアメリカ全体が世界最強国であるという自負心を持ちながらも経済情勢が大変厳しい中にもかかわらず、全体としてはゆったりとした時間の流れにあって私達を受け入れて頂いたことに感謝したい。

このほか、ロサンゼルスではサンタモニカ・ピアでのひと時、ビバリーヒルズの高級住宅街の景観、ダウンタウンの高層ビル群や活発な企業活動、ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドの楽しいショーなど。

サンフランシスコでのフィッシャーマンズ・ワーク・ピア39やゴールデンゲートブリッジの美しい景観、チャイナタウンのにぎわい、宿泊したホテル、セント・フランシス前のユニオン・スクエアーでのひと時など、楽しい、そして忘れられない思い出もありました。

「井の中の蛙大海を知らず」「百聞は一見に如ず」です。

皆様も機会がありましたら是非、お出かけになられますようお促めして視察記とさせて頂きます。